

東京大学

理学部広報

第3巻 第6号 昭和46年6月15日

5月理学部会合日誌

- 4日(火) 11:00~13:00 情報科学研究施設設立準備委員会
6日(木) 10:00~11:00 進学生ガイダンス
10日(月) 14:00~16:00 理学系研究科委員会
12日(水) 15:00~17:00 教務委員会
15日(土) 10:00~14:00 総合計画・会計合同委員会
17日(月) 10:00~12:00 主任会議
12:30~13:10 理職との会見
19日(水) 13:00~17:00 教授会
28日(金) 14:00~16:00 奨学委員会(大学院)

昭和46年4月16日進学者

数学科	13名	生物学科	
物理学科	17名	動物課程	2名
天文学科	1名	植物課程	2名
地球物理学科	4名	地学科	
化学科	12名	地質学鉱物学課程	3名
生物化学科	3名	地理学課程	2名

教授会メモ

5月19日(水) 定例教授会 於4号館物理会議室

1. 前回の議事承認
2. 人事異動等報告
3. 研究生の入学
4. 研究生の期間延長
学士入学について

5. 理学部規則の一部改正(化学科)
6. 評議会・学部長会議等の報告, その他
 - 1) 5月祭は一応無事に終了した。入場者概数は, 土曜 25,000人, 日曜 35,000人。
 - 2) 農学部キャンパスのトラブルは依然として続いているが, これについて二, 三の報告があった。
 - 3) 教養学部の代議員大会でスト提案があった。
 - 4) 工学部で大学院レベルで東京工業大学との交流(講義聴講など)が行なわれることになった。
 - 5) 改革委員会(教官)から答申が出された。
 - 6) 国立十大学理学部長会議(5月12日, 13日, 於九州大学)報告。
7. 47年度入試について
協力をお願いしたいとの要望が学部長よりあった。
8. 寄附受領の件
9. 人事委員会報告(今井委員長)
委員長は互選により今井教授に決定。
10. 会計委員会報告(島内委員長)
 - 1) 47年度概算要求中の重要事項について。
 - 2) 部長保留金について。
 - 3) 特別部長保留金の提案があり, 二, 三の議論があった。
11. 総合計画委員会報告
学部長から, 委員会としては当面の問題として建物についての検討を進めているが, 理学部4号館の学年進行による増築, および情報科学研究施設の建物の建築や近く議題となる化学室の改築などがある。全学の建築特別委員会には1号館一化学館地区に, 理学部中央館(仮称)として, 化学教室の改築その他をふくめたかなり大規模高層建築の計画を申し出ている。した

がって学部予算要求には建物要求はできるだけ一本化した建築計画として実施して行く方針である。などの報告があった。

12. その他

- 1) 藤原教授から基礎科学測定情報センターについての説明。
- 2) 原子力関係について。

秋田教授から原子力教育関係の講座、施設の組織性格を改める問題（詳細は次号に掲載の予定）について、関係教官の中からつくられた小委員会で検討された案が報告されこれについて討論があった。

幹 事 会

- | | |
|-----|-------------|
| 幹事長 | 後藤英一教授（情） |
| 幹事 | 増田久弥講師（数） |
| | 本間三郎（物） |
| | 大西孝治助教授（化） |
| | 山田敏郎（生化） |
| | 三好泰博講師（植） |
| | 正田篤五郎助教授（鉱） |

理学部生物化学科の教官選考経過について

理学部生物化学科は5講座から成っているが、本年3月末をもつて4人の教授が定年退官された。この後任問題にはかねてから困難が予想されており、生物化学教室としては年余にわたって後任選考のための努力を重ねてきたが、昨年10月に至り、当時の生物化学教室主任江上教授から、理学部長に宛て、定年退官教授後任と当時空席であった1助教授の選考に関して配慮してほしい旨の申し出があった。この申し出について理学部教授会は生物化学科人事に関する選考小委員会を設け、昨年11月以来この問題を鋭意検討し、最近に至つて2教授の選考を終え、理学部教授会に報告しその承認を得て、近く発令される運びになっている。後任人事はまだ終了はしていないので、選考小委員会はなお引続き活動する一方、生物化学教室の充実のために理学部として努力してゆく方針である。

教官人事選考方式は大学として重要な問題であるが、現在、各学部において行なわれているものには若干のちがいがあろうである。理学部では、教授、助教授、専任講師の選考はふつう、各教室内で内選考の上、理学部長に申し出て、理学部長はその申し出に基づいて候補者を教授会（教授のみ）に提案し、ここで審議決定される。ただし新設学科、施設等の場合、また既設学科でも講座担任教授が全く存在しない場合、または1名しかない場合など、当該教室のみで内選考をすることができないか、または不適當である場合には、理学部教授会として選考委員会を設ける例となっている。今回の生物化学科教官人事はこの場合に当るものであるが、上記のように、生物化学教室の申し出によって上記のような選考方法がとられたものである。

理学博士学位授与者

専門課程	氏名	論文題目
生物化学	鈴木保夫	光合成細菌におけるバクテリオクロロフィルの存在状態と電子伝達反応の研究
学位規則第3条2項該当	飯田誠之	II-VI 族化合物半導体の発光過程
同	二神弘	アメリカ合衆国における最近の都市化現象と都市化地域における黒人の空間構成の研究
同	岩田忠夫	電子照射による黒鉛の原子のはじき出し
同	石原正泰	軽い鉛同位元素の 50 MeV 陽子を用いたインビーム分光法による研究
同	小林茂樹	新しい蛍光測定法による臓器酸化還元動態の研究
同	清水良一	半安定分布に関する研究
同	村松寿延	一般的な領域で定義された関数の作る Besov 空間について
同	古橋昭子	β -ジケトンのチオ誘導体を含む金属錯体の合成と性質
同	丸山滋弥	実半単純リー群のホロ球部分群
同	竹内喜佐雄	$SL_2(Q)$ に含まれる Fuchs 群の研究
同	黒田成信	代数体のイデアル群とデイリクレ級数に関する研究
同	矢吹博子	テトラヒメナからのヒストンの単離とその同調分裂周期におけるヒストンの変動に関する研究

理学部ところどころ

茨城県柿岡の理学部用地

理学部広報の前々号に、いまはなくなった東大前を通る都電が敷かれるときの興味深い歴史的事実について、吉野氏の紹介があります。東大前に都電を通らせるに関連して、大正2年4月に茨城県新治郡柿岡町に152,228坪という広大な土地が理科大学物理学教室の敷地となり、このことがひいては今日の地球物理研究施設の設定につながっています。今回はこの広大な土地（面称はほぼ東大本郷構内くらいある）がどのように使われてきたかについて紹介いたします。

東京大学が柿岡に得た土地は気象庁地磁気観測所に隣接している。気象庁は現在では運輸省に属しているが、発足当時は文部省所管の中央气象台であった。東京大学で柿岡の広大な土地を積極的に利用できないでいた頃、中央气象台に柿岡地磁気観測所ができ、地磁気観測業務が始められた。当時の土地貸借の記録は、同じ省所属の機関同志の間でのことだつたせいも、正式文書の交換があったかどうか明らかではない。わかっている記録によると、中央气象台地磁気観測所の業務運営の目的のため、本学の敷地の一部を無償使用させたのは

大正13年12月20日以降に はじめ3115坪を

大正15年5月16日以降に さらに8221坪を追加

昭和32年4月1日以降に さらに507坪を追加

使用許可してきた。これらの土地合計11843坪を使用して、地磁気観測所は観測業務を遂行してきた。

東京大学では大正年間からひきつづき特に積極的に柿岡の土地を活用できるに至らぬまま第二次世界大戦となった。戦争中は柿岡の東京大学用地は、平坦な部分はいわゆる決戦農場として町民村民が食料増産のために耕しており、山肌の樹木は伐採されていた。東京大学に保管してあった白金イリジウム製メートル原器およびキログラム原器の複製品は戦災を避けて、この柿岡の地に疎開した。

さて終戦後に私たちはまず地球磁場変動の実験観測のために柿岡の土地を使用しはじめた。このとき東京大学の土地はかなり遠から一目でわかるほど土色の山肌を見せていた。また戦争中の名残りの耕作はつづけられており、ただちに没収することは不可能であった。歴代の理学部長のご努力により、また地元の有力者吉田金三翁のご好意により、戦時中からの耕作地を次第に取戻し、また山肌には植林を行なった。いまでは木がかなり大きくなり、山の緑はまわりの民有地と比べて見劣りがしない

専門課程	氏名	論文題目
学位規則第3条2項該当	林 宏 昭	子ウシ胸腺高リシン・セリン型および高アラニン・ロイシン型ヒストンの一次構造に関する研究
同	新谷卓郎	整係数二元三次型式の類数を係数とするデイリクレ級数について
同	石川勝利	子ウシ胸腺高リシン・セリン型および高アルギニン・グリシン型ヒストンの構造と修飾に関する研究

情報科学特論について

理学部の化学、生物、生化、地質、鉱物等の学部学生、大学院生への情報科学の講義を、今年度も下記の通り開講するのでお知らせします。

講 師： 東京大学理学部情報科学研究施設
国井利泰助教授

単 位： 生物科学特論 XI（1単位）とする。

日 時： 夏期休暇をはさんでその前と後の期日の予定。決定したい通知する。

場 所： 理学部化学教室の予定。

応募方法： 受講希望者は理学部教務掛宛履習届を提出のこと。締切は7月初旬。

テ ー マ	内 容
1. システム理論序説	コンピューター・システムを自然システム、人工システム、人間・社会システムの中に位置づけるために、システム理論の基礎を講義する。
2. コンピューター・システム概論	コンピューターのハードウェアとソフトウェアの全体の構造と機能の概要を講義する。
3. プログラミング・システム汎論	各種のプログラミング言語について、その目的と機能とを解説する。
4. プログラムによる問題解決	問題分析法、フローチャート法、プログラミングおよびコーディング技法の講義と実習とを行なう。
5. システム構成法	マン・マシン・システムを中心として、システムを構成するのに必要な諸方法を具体例をとって講義する。

いまでになっている。

1957~58年に実施された国際地球観測年に際しては、この土地で地磁気・電離層および大気光の観測を行ない、1964~65年の太陽活動極小期国際観測年に際しては、低周波自然電磁波の観測をも行なった。これらの活動もあって、

昭和33年3月31日に 理学部地球物理観測所となり

昭和39年4月1日に 理学部地球物理研究施設発足の運びとなった。また昭和37年から42年の間、通産省工業技術院計量研究所が重力絶対測定を行なう便宜を提供した。

現在では、土地に関しては、先に述べた地磁気観測所に使用させてきた11843坪は、会計法の都合により正式に気象庁に移管している。まだ他に約4000坪の土地を地磁気観測所に使用を許可している。建物については、散在する実験観測用建物ならびに計量研究所から移管を受けた建物をあわせてもまだ僅か1部門分の基準面積にも足りない程度であり、本館とも称すべき建物がつくられることを切望している。現地での研究活動については、また適当な機会に紹介したいと思います。

戦後国鉄常磐線を電化するにあたっては、柿岡における地磁気観測に支障をきたさないように、取手以北は交流電化になっています。直流電化では線路からもれて出る電流のために自然の磁場変化を十分な精度で測定あるいは記録することができなくなるからです。常磐線上野発の列車が直交両用電気機関車で引ばれているのはこのためです。

東大前の都電も去る3月17日で運行をやめ、いずれは線路も撤去されるかあるいは埋められることになりましょう。ところで東大前の都電の線路は、震動がなるべく地面に伝わらないように特別な工事が施されていたとの噂がありますので、もし掘り返すことがあればぜひ見たいと思っています。

(地球物理研究施設 福島 直)

古い文書から No. 4

前号に書いておいたように今回は伊能忠敬翁のことについて調べてみることにする。先ず例によって新聞の切抜きから。

明治 16. 10. 12 郵便報知

文化年中世界地図を作製したる伊能忠敬の碑建立

此ほど川村参議が、不図得られたる海外各国の地図

は、文化年中幕府の旗本伊能勘解由なる者が編さん調製せしものにて、現今の地図に参照するに僅かの差違あるのみにて、実に其頃斯くの如き精密正確なる地図を調製せしは感ずるに余りありて、我国の荣誉とも云ふべければ、同人の名誉を表彰し不朽に伝えんと、今度佐野元老院議長と課り、高輪大木戸の左側へ一の碑石を建て、其事を勸せんと目下較計さるよし。

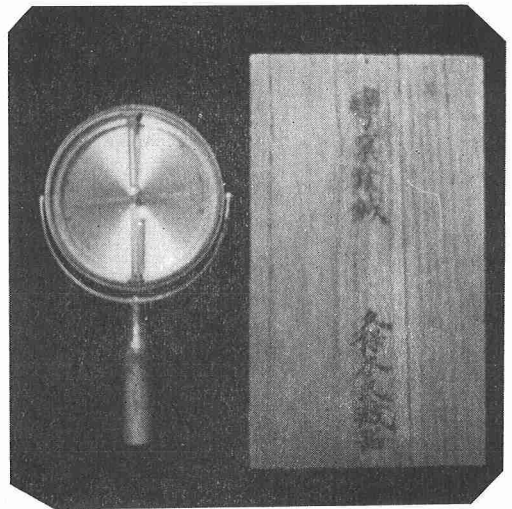
史料編さん所の進士先生に伊能勘解由(忠敬)翁から久保木太郎右衛門氏あてに送った手紙をわかり易く説明していただいた。それはいづれ次号に発表させていただくとして、遺品は「わんからしん」といって測量に用いる器械であって、次の書面にもあるとおり非常に貴重なものであることが判明した。

佐原町大谷亮吉氏より大須賀恒造氏(香取郡新嶋村磯山区)あての書面が3通理学部に保管されている。そのうち2通の大意は次のとおりである。

○明治 42 年 6 月 24 日付

先日一寸お話ししましたが忠敬翁使用の測量器械類を天覧に供することは本年7月中旬東京帝国大学卒業式に御臨幸の際御覧に供することに内定しましたが伊能家に現存のものは修理を加えた箇所がありますので原形*のまま完全に保存してある分を借用して天覧に供したいのでお貸し願いたいと存じます。

(*これが現在理学部にあるもの)



○明治 42 年 7 月 25 日付

「わんからしん」拜借ありがとうございました。本

月 10 日東京帝国大学の卒業式に御臨幸の際、伊能家所蔵の量地器械書類とともに天覧に供し、長岡理科大学教授が御説明申しあげ至極御満足の御模様でしたので御安心下さい。御礼まで。

わんからしん (彎窠羅鍼)

小方位儀，小方位盤と云う。船舶の羅針盤と大体同じ構造で，真鍮製の携帯用磁石の一種，磁石を支えている中空の真鍮棒を杖の先に立てて方位を測った。それ故杖先光磁石とも称した。(この項次号につづく)

吉野 誠 治

お知らせ

○基礎研究に RCA 助成金を提供

RCA (アールシーエー・コーポレーション) は物性の基礎研究をしておられる方を対象に過去 10 年間研究助成金を提供してまいりました。昭和 46 年度も昨年度と同様 6 件の研究テーマに対して，助成金を予定しております。この助成金受領者は民間から補助を受けずに大学で研究しておられる方に限られています。

1. 助成金提供件数 1 件につき 70 万円 1 大学 1 件 計 6 件
2. 申込資格 固体物理および化学，電子工学等の分野において基礎研究を行っている方。助成金申込者は申込に先立って学長または学部長の承認を得て下さい。

3. 申込締切日 昭和 46 年 7 月 31 日
4. 審査 日米両国の科学者によって構成される選考委員会が審査し，申込書に記載された研究テーマの中から 6 件を選定します。
5. 決定発表 昭和 46 年 11 月 1 日
6. 申込方法 申込書に次の諸項目を英文で書いて，この紙面の末尾に記した宛先へ郵送願います。申込書ご希望の方は当研究所までお知らせ下さい。

- a. 大学名とその所在地
- b. 研究者の姓名，住所，教職名および研究指導者のある場合は，その姓名，教職名。
- c. 研究題目および研究内容の要約（この助成金で，どんな事柄をどの程度まで研究する計画であるか，またその研究協力者および分担などの具体的説明を含む。）

7. もし，ご応募の研究について民間からの研究費を受けたことがあるか，または現在他に申し込み中の場合には，その内容を簡単に記して下さい。
もしご不審の点がありましたら当研究所までお問合せ下さい。

申込先 東京都町田市図師町字 4 号 971-2

RCA 基礎研究所長

フィリップ・ケー・バルツァー

(Dr. P. K. Baltzer)

編集 和田 昭 允
理 1 号館 217 号室 内線 2298